

研修会報告

令和7年3月3日

文責：小泉照樹

研修会テーマ「2024年度宮臨技病理・細胞診部門研修会

～胃癌診療における病理検査室の役割～

開催日時 令和7年2月22日（土）13：00～16：15

会場 Zoom ウェビナーによる Web 研修会

司会 小泉照樹

生涯教育点数 専門教科 20点

参加者 会員参加 104名 入会申請中会員 0名 非会員 3名 賛助会員 0名 学生 0名
合計 107名

講演1 「胃癌に対する CLDN18 モノクローナル抗体製剤ビロイ（ゾルベツキシマブ）の有用性」

アステラス製薬株式会社 田崎 亮裕 先生

講演2 「胃癌のコンパニオン診断」

ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 加藤 舞 先生

講演3 「宮城県内医療機関における胃癌バイオマーカー検査の運用状況」

仙台厚生病院 臨床検査センター 諸橋 彰 技師

宮城県立がんセンター 臨床検査技術部 内城 孝之 技師

講演4 「当院におけるコンパニオン診断の運用について」

東北大学病院 病理部 渡邊 佑太 技師

講演5 「胃癌の病理診断について」

東北大学病院 病理部 三浦 豪 先生

内容

本研修会は他の研修会同様に Zoom ウェビナーによる Web での開催となった。

講演 1 ではアステラス製薬の田崎先生より胃癌に対し保険収載されて間もない薬剤であるゾルベツキシマブについて講演いただいた。製薬会社からの専門的な講演であり、薬剤の作用機序をはじめ、臨床試験での詳細なデータやその有用性についての報告があった。さらなる臨床データの蓄積により今後の適応拡大なども示唆された。

講演 2 ではロシュ・ダイアグノスティックス株式会社の加藤先生より、前講演で取り上げたゾルベツキシマブのコンパニオン診断試薬である CLDN18 の免疫染色を中心として胃癌診療で用いられるコンパニオン診断について講演いただいた。本講演ではロシュ社で扱っている CLDN18 のほか、MMR タンパクの免疫染色の染色像・評価方法についても紹介

があった。

講演 3 では仙台厚生病院の諸橋技師と宮城県立がんセンターの内城技師より自施設での胃癌を中心としたコンパニオン診断の運用について講演いただいた。院内検査や外注検査を行ううえでメリットやデメリットなどもあるが、運用方法や方針は施設により様々であり特色ある内容であった。参加者にとってはこれら講演を参考に自施設の運用を見直す機会になったのではないかと思われる。

講演 4 では東北大学病院の渡邊技師より胃癌を含む各疾患におけるコンパニオン診断の自施設での運用状況について講演いただいた。コンパニオン診断における検査法は免疫染色や遺伝子検査など多岐にわたり、検体や試薬の管理などについても考慮する必要性が示された。講演後、前講演の講師である諸橋技師と内城技師を交えた総合討論を行い、参加者からは各施設のさらに詳細な運用状況や PD-L1 検査などへの質問が挙がった。

講演 5 では東北大学病院の病理医である三浦先生より胃癌の診断について講演いただいた。胃癌病理の総論からヘリコバクターと胃癌との関わりなど、実際の組織像や様々なデータを交えての講演は理解しやすく、標本作製を担う臨床検査技師にとって良い有意義であったと考えられた。日常病理医が診断の際にどのような点を重視しているか理解することで、我々技師にとっても意識・業務の質向上につながると考えられる。

Web 開催ということもあり、県内のみならず県外からも多数の参加があった。Web 開催でのメリットは多く、実際に過去に開催したウェビナーでも Web 開催の継続を望む声が多く寄せられている。今後も Web 研修会を主体とした学術的内容の研修会を企画していきたいと考える。